沖縄タイムス　2014年（平成26年）12月28日 日曜日

沖縄東・ドリーム高山がV

女子個人野原 男子は川崎

九州卓球県予選

卓球の第15回全九州選手権中学生の部県予選最終日は27日、県総合運動公園体育館で行われ、男子団体決勝は沖縄東中が3―0で宮里中を破って優勝した。女子ではクラブチームのドリーム高山が3―1で北谷中を下して栄冠に輝いた。同校対決となった男子個人決勝は川崎翔（沖縄東中）が安里尚倫（同）を破って優勝し、団体との2冠に輝いた。同女子は野原梨沙（金武卓球道場）が中村陽菜（浦添中）を下し頂点に立った。

男子団体決勝ダブルス　第2ゲーム、沖縄東の稲嶺佑哉（左）がバックハンドで4点目を奪う。右は宮城大地＝県総合運動公園体育館（花城克俊撮影）

野原梨沙

団体は上位4校、個人は8強以上が九州大会（2月7～8日・鹿児島県）の出場権を得た。

（記録は後日掲載します）

沖縄東が団体圧勝

○…男子団体は、個人優勝と準優勝選手を擁する沖縄東が宮里を退け、頂点に立った。結果的には4単1複すべてで勝利。だが川崎淳コーチは「上での戦いを考えると、もっとダブルスの強化が必要」と辛口だった。

男子団体優勝の沖縄東。川崎翔（前列左から2人目）は個人と2冠

決勝のダブルスを任された稲嶺佑哉・宮城大地組は、力強いショットを武器に第1、2ゲームを先取。楽勝ムードでプレーが雑になった第3ゲームから連係の歯車が狂い始めた。

相手サーブを安易に返し、ミスを連発。1年生の宮城は「だんだんイライラしてしまった」。自滅する形で第3、4ゲームを失い、勝負の行方は最終ゲームに持ち越された。

川崎コーチから「もう一度自分たちのペースに」と声を掛けられ、気持ちを落ち着かせた2人。第5ゲームは、3度のジュースに突入した大接戦を粘り勝ち、優勝に花を添えた。

「まだまだ精神的に弱い」と反省する宮城。2年生の稲嶺は「ピンチでの切り替えができるようになって、2人で勝ち続けたい」と飛躍を誓った。（花城克俊）

ドリーム高山 単3人けん引

県内強豪クラブのドリーム高山が、北谷との女子決勝で四つのシングルスを勝って栄冠に輝いた。第2シングルスの高山朝華は「個人戦で優勝できなかった分、団体はどうしても取りたかった」と仲間と喜びを分かち合った。

女子団体優勝のドリーム高山

高山とともにチームをけん引したのが、森田さきと山城可鈴。第3シングルスの森田は、団体リーグ戦の前に右足首を負傷。「動きが悪かった」と本調子でない中、粘りのラリーを見せて3―1で勝利した。

第4シングルスの山城は、コースぎりぎりのショットで得点を重ね、3―0のストレート勝ち。「内容が悪いなりにうまくまとめられた」と振り返り、「どんな状況でも平常心でプレーできるようにしたい」と新たな目標を掲げた。

女子団体決勝第4シングルス　第3ゲーム、ドリーム高山の山城可鈴が5点目を奪う